

Contents

演劇芸術監督 小川絵梨子	2
<hr/>	
2021/2022シーズン 演劇 ラインアップ	4
海外招聘公演 ガラスの動物園	5
フルオーデション4 イロアセル	7
あーぶくたった、にいたった	10
正論≡極論≡批判≠議論 Vol.1 アンチポデス(仮題)	13
正論≡極論≡批判≠議論 Vol.2 ロビー・ヒーロー	16
正論≡極論≡批判≠議論 Vol.3 来訪(仮題)	19
<hr/>	
こつこつプロジェクト —ディベロップメント—	24
ロイヤルコート劇場×新国立劇場 劇作家ワークショップ	26
ギャラリープロジェクト	27
<hr/>	
公演一覧(1997.10~2021.7)	28

2021/2022 シーズン 演劇

演劇芸術監督 小川絵梨子



2020年初頭から、世界中で感染症拡大という未曾有の事態が起きました。たくさんの命が失われ、あらゆる社会活動が困難となり、不安と苦しさや喪失が広がりました。また、日本でも、世界でも多くの舞台公演が中止となりました。失われた命も時間も、そのままに取り戻すことはできません。しかし、今を生きている我々がこの中で考えたことや気づかされたことが、少しずつでも、これからの未来に生かされていくと信じています。起きたことを忘れず、そこから学び得たことを僅かでも、この先に長く長く続いていく未来に貢献できたらと願っています。

2021/2022シーズンでは、これまでに中止となってしまった作品と、感染症拡大を経て新しく作られる作品が並びます。開幕は昨シーズンに中止となってしまった、フランスの国立劇場であるオデオン劇場制作『ガラスの動物園』の招聘公演です。昨年、フランスで開幕した直後に中止となってしまった公演ですが、この度、改めての稽古と、フランス・ドイツでの上演を経た後、新国立劇場にて公演を行います。多くの喪失と度重なるロックダウンに見舞われたヨーロッパでしたが、そこから社会生活や舞台活動がどのように再開し、変化しているのかなども伺う機会が出来ればと思います。

11月には、フルオーディション企画の第四弾『イロアセル』をお届けします。演出に本作の作家でもある倉持裕さんをお迎えし、フルオーディションとしては初の現代の作品となります。（第二弾であった『反応工程』は初日の直前に中止となってしまいましたが、21年の夏に改めて、全キャストが再集結して公演いたします。）毎年、多くの方々がオーディションにご応募下さり、劇場として大きな励みとなっております。オーディション企画はこの先も更に強化していく予定です。

12月には、2018/2019シーズンから続けておりました、「こつこつプロジェクト」（公演の有無に関わらず、一年間かけて作品を作っていく作業）を経て、『あーぶくたった、にいたった』を上演いたします。「こつこつプロジェクト」は、目まぐるしい公演のサイクルからちょっと道を外れ、時間をかけて作品を作ってみること、そして、「つくる場所」としての劇場のあり方を模索しているプロジェクトです。このプロジェクトも感染症拡大の中で大幅な予定変更がありましたが、この度、こつこつと積み重ねてきた時間を経て、劇場での上演を行います。演出は西沢栄治さんです。また「こつこつプロジェクト第二期」といたしまして、新しく3人の演出家をお迎えし、三つの作品を一年間かけてこつこつと稽古して参ります。

22年の春には、シリーズ「正論≒極論≒批判≠議論」として三つの作品をお届けします。このシリーズは、多様な意見をのびのびと発言し、一人では導き出せない何かに到達するための「議論」について改めて考えてみたい、という思いから企画いたしました。正論や極論や相手を見殺しにした批判や、ましてや誹謗中傷は、議論には繋がっていきません。多様な意見交換は、お互いを最低限には尊重し、自分の正義ではなく、相手に届くような言葉を使うことで生まれます。多様性が見えに

くい日本ですが、本来それぞれが持つ人生も考えもそれぞれに違います。それぞれの個への尊重を持った上での意見交換や議論、その社会的必要性について考える機会にしたいと思います。三作品はそれぞれ、アニー・ベイカー作『アンチポデス』、ケネス・ロナーガン作『ロビー・ヒーロー』、フリードリヒ・デュレンマット作『来訪』。演出は、桑原裕子さん、五戸真理枝さん、小川がつとめます。

公演以外では、「ギャラリープロジェクト」として、中高生のための演劇ワークショップ、公演ガイドツアー等のほか、目や耳に障害を持つお客様への観劇サポート公演なども予定しています。感染症拡大以降、劇場にお越しくださるのが難しかった方々も大変に多くいらしたと思います。その方々にも安心して楽しく劇場に来ていただけますよう、一人でも多くの方に舞台を楽しんでいただけますよう、我々一丸となって努力して参ります。

劇場にて、また皆様にお会いできますことを心より楽しみにしております。

〈プロフィール〉

2004年、ニューヨーク・アクターズスタジオ大学院演出部卒業。06～07年、平成17年度文化庁新進芸術家海外派遣制度研修生。18年9月より新国立劇場の演劇芸術監督に就任。近年の演出作品に、『ほんとうのハウンド警部』『作者を探す六人の登場人物』『じゃり』『ART』『死と乙女』『WILD』『熱帯樹』『出口なし』『マクガワン・トリロジー』『FUN HOME』『The Beauty Queen of Leenane』『ローゼンクランツとギルデンスターンは死んだ』『CRIMES OF THE HEART 一心の罪』『死の舞踏／令嬢ジュリー』『ユビュ王』『夜想曲集』『RED』『スポケーンの左手』など。新国立劇場では『タージマハルの衛兵』『骨と十字架』『スカイライト』『1984』『マリアの首―幻に長崎を想う曲―』『星ノ数ホド』『OPUS/作品』の演出のほか、『かもめ』『ウインズロウ・ボーイ』の翻訳も手がける。

Drama

2021/2022 シーズン 演劇 ラインアップ 〈計 6 演目〉

2021 年 9 月

海外招聘公演

ガラスの動物園

作: テネシー・ウィリアムズ
演出: イヴォ・ヴァン・ホーヴェ
制作: 国立オデオン劇場

2021 年 11 月

フルオーデション 4

イロアセル

作・演出: 倉持 裕

2021 年 12 月

あーぶくたった、にいたった

作: 別役 実
演出: 西沢栄治

2022 年 4 月

日本初演

正論≡極論≡批判≠議論 Vol.1

アンチポデス(仮題)

作: アニー・ベイカー
翻訳: 小田島創志
演出: 小川絵梨子

2022 年 5 月

日本初演

正論≡極論≡批判≠議論 Vol.2

ロビー・ヒーロー

作: ケネス・ロナーガン
翻訳: 浦辺千鶴
演出: 桑原裕子

2022 年 6 月

正論≡極論≡批判≠議論 Vol.3

来訪(仮題)

作: フリードリヒ・デュレンマット
翻訳: 小山ゆうな
演出: 五戸真理枝

2021年9月
＜海外招聘公演＞

ガラスの動物園

The Glass Menagerie

中劇場〈フランス語上演／日本語字幕付〉

●会員先行販売期間:2021年7/22(木・祝)~7/24(土)

●一般発売日:2021年7/31(土)

料金 S:11,000円 A:7,700円 B:4,400円

作:テネシー・ウィリアムズ

Written by Tennessee WILLIAMS

演出:イヴォ・ヴァン・ホーヴェ

Directed by Ivo van HOVE

制作:国立オデオン劇場

Creation Odéon-Théâtre de l'Europe

出演:イザベル・ユペール、ジャスティーン・バチエレ、シジル・グエイ、アントワン・レナーツ

Cast: Isabelle HUPPERT, Justine BACHELET, Cyril GUEÏ, Antoine REINARTZ

作品

本作は小川絵梨子芸術監督就任後、初の海外作品招聘公演となります。

フランス、パリの国立オデオン劇場の協力のもと、2020年3月にオデオン劇場制作によりワールドプレミアを迎えたテネシー・ウィリアムズの代表作『ガラスの動物園』を招聘し日本初演します。2020/2021シーズンの開幕作品として上演を予定しておりました本作は、コロナ禍の中、本国フランスにおいても公演5日目にして公演中止となり、来日も叶いませんでしたが、21年4月より欧州でのツアーが決定、9月の来日公演が決定いたしました。

主演のアマンダ役にはフランスを代表する女優であり、映画、舞台と幅広く活躍するイザベル・ユペール、演出には、話題作を次々と発表し、今最も世界が注目する演出家、イヴォ・ヴァン・ホーヴェがあたります。

物語

この戯曲は「追憶の劇」である。

舞台は不況時代のセントルイスの裏町。メインキャラクターはアマンダ、彼女の娘のローラ、息子のトムの3人。生活に疲れながらも昔の夢を追い、儂い幸せを夢見る母親アマンダは未だに自分のことを箱入りの南部婦人だと思っている。靴工場で働くトムは家族を養いながら夢である詩人を志し、隙を見つけては映画に通う。彼の姉ローラは病的なほどに自意識過剰である。彼女はアパートから一歩も出ずに、自身のコレクションである小さく繊細なガラス細工の動物たちを来る日も来る日も磨き続ける……。この家にはそれぞれに別の幸せな人生を夢見る3人の孤独な者たちが一緒に閉じ込められている。しかしそんな日々も、彼らの夢が叶うかに思えたある晩までのことだった。ごく普通の青年でトムの友人でもあるジム・オコナーを、アマンダは「婿候補」と勘違いし、彼がローラにプロポーズする姿まで夢想してしまう。当然のごとく、彼女の計画は新たな、あるいは最後の幻想となる……。

スタッフ プロフィール

テネシー・ウィリアムズ

Tennessee WILLIAMS

アメリカの劇作家（1911年－1983年）。ミシシッピ州コロンバスに生まれ、不況時代のセントルイスで複雑な家庭環境のもと青春時代を過ごす。各地を放浪しながら創作をしていたが、39年に4つの一幕劇でシアター・ギルド賞を受賞。44年自伝的作品『ガラスの動物園』がブロードウェイで上演された第一作。この成功に続く47年の『欲望という名の電車』、55年の『やけたトタン屋根の上の猫』で2度のピューリッツァー賞を受賞し、劇作家としての地位を確固たるものにしたが、その名声の裏で、生涯背負い続けた孤独と葛藤から私生活は荒れていった。83年ニューヨークのホテルの一室にて事故死。享年71歳。

イヴォ・ヴァン・ホーヴェ

Ivo van HOVE

2001年よりインターナショナル・シアター・アムステルダム（ITA）の芸術監督を務めている。自身の演出作品（『Germs』、『Rumours』）により、1981年に演出家としてのキャリアをスタートさせた。90年から2000年の間、Het Zuidelijk Toneel 劇団の監督を務める。1998年から2004年には、オランダ・フェスティバルの監督を務め、国際的な演劇作品、音楽、歌劇、およびダンスを毎年上演した。また10年まで、アントワープの劇場芸術部門の芸術的指導者を務めた。

14年にパリ・オデオン劇場で上演したアーサー・ミラー作『橋からの眺め』は、15年ロンドンのヤング・ヴィックにも招かれて絶賛され、ローレンス・オリヴィエ賞・最優秀演出賞を受賞。その後、NY リンカーン・センターでも上演されてブロードウェイ・デビューを飾り、第70回トニー賞・演劇演出賞を受賞した。続いて16年3月より同じくミラー作『るつぼ』（音楽フィリップ・グラス）を演出し、同じくトニー賞の再演演劇作品賞、主演女優賞など4部門候補となるなど、話題作を連発している。



2021年11月
＜フルオー디션4＞

イロアセル

Iroaseru
小劇場

●会員先行販売期間:2021年9/25(土)～9/27(月)
●一般発売日:2021年10/2(土)
料金 A:7,700円 B:3,300円

作・演出:倉持 裕

Written and Directed by KURAMOCHI Yutaka

出演:伊藤正之、東風万智子、高木 稟、永岡 佑、永田 凜、西ノ園達大、箱田暁史、福原稚菜、山崎清介、山下容莉枝

Cast: ITO Masayuki, KOCHI Machiko, TAKAGI Rin, NAGAOKA Tasuku, NAGATA Rin, NISHINOSONO Tatsuhiro,
HAKODA Akifumi, FUKUHARA Wakana, YAMASAKI Seisuke, YAMASHITA Yorie

作品

小川絵梨子芸術監督が、その就任とともに打ち出した支柱の一つ、「演劇システムの実験と開拓」として、すべての出演者をオー디션で決定する「フルオー디션企画」。その第四弾としてお贈りするの
は、2011年10月に倉持裕が新国立劇場に書き下ろした『イロアセル』。演出に作者でもある倉持裕自身を迎え、20年10月より公募を開始、11月末から約3週間をかけて開催したオーディションを経て、10名の出演者が決定しました。

ネット社会やコロナ禍において、対面を必要とせず、言葉だけに頼るコミュニケーションツールが発達、増加した現代に、日常における対話や発言の在り方を、今改めて問いかける作品です。

物語

海に浮かぶ、とある小さな島。その島民たちの言葉にはそれぞれ異なる固有の色がついている。言葉の色を可視化できる機械を装着することを強いられた島民たちは、いつ、どこで発言しても、その色によって誰の言葉なのか、島のどこにいても特定されてしまう。そのため、彼らはいつも慎重に発言し、決してウソをつかない。ウソをつけない。

ある日丘の上に檻が設置され、島の外から囚人と看守がやって来る。彼らの言葉には色がない。発言が特定されることもない。そして、彼らの前で話す時だけは、島民たちの言葉も無色透明になることが判明する。

やがて島民が次々と面会に来て、打ち明け話をしていく。これまで隠し続けてきた島民たちの本心が徐々に明かされていく……。

作・演出家からのメッセージ**倉持 裕**

『イロアセル』は、2011年に僕が新国立劇場に書き下ろした戯曲です。

自分の話す言葉にそれぞれ固有の色が付いていて、おかげで発言に慎重だった人々が、ある日色を失った途端、それまで抑えてきた醜い本音を語り出す……という、ネット上で豹変する匿名の人間たちを揶揄したような話です。

この作品を書き終えた直後、東日本大震災が起きました。当時、ネット上には他人をいたわる優しい言葉があふれましたが、やがてそれもすぐに被災地や放射能を巡る攻撃的で差別的な言葉に塗り替えられました。

あれから十年経ち、このコロナ禍でも似たようなことが起きています。

地震もウイルスも、暴言を吐きかける相手としては張り合いがない。そこで自分たちと同じ人間の中から、もっともらしい理由をつけて標的を選び、隣近所誘い合っとうさ晴らしを開始する……。

当初、このフルオーディション企画で自作を演出しようとは思っていなかったのですが、小川絵梨子芸術監督やプロデューサー達から『イロアセル』を勧められた時は驚きましたが、上記のような状況を鑑み、今、再びやるべき芝居だと思いました。

それから、全ての役をオーディションで選んだのは初めての経験でした。

普段からベストなキャスティングを目指してはいるものの、ここまで何のしがらみもなく、作品イメージに合うかどうかだけを判断基準に選んだことはありません。従って今回、僕の経験上、最も理想的なキャスティングとなっています。どうぞご期待ください。

スタッフ プロフィール

倉持 裕

KURAMOCHI Yutaka

劇作家・演出家。2000年、ペンギンブルーペイルパイルズを旗揚げ・主催し、すべての作品の作・演出を務める。04年『ワンマン・ショー』で第48回岸田國士戯曲賞を受賞。近年は映像でもヒット作品を出し、多くの脚本も執筆、劇団外にも活動の場を広げている。近年の主な劇作作品にヴィレッジプロデュース『浦島さん』脚色、ミュージカル『HEADS UP!/ヘッズ・アップ!』、いのうえ歌舞伎『乱鶯』『けむりの軍団』、作・演出作品にM&Oplaysプロデュース『鎌塚氏、舞い散る』『鎌塚氏、腹におさめる』『鎌塚氏、振り下ろす』『鎌塚氏、すくい上げる』『鎌塚氏、放り投げる』『虹とマーブル』、世田谷パブリックシアター『お勢断行』『お勢登場』『現代能楽集Ⅶ 花子について』、竹生企画『火星の二人』『ブロッケンの妖怪』、東宝『誰か席について』、演出作品にホリプロ『神の子どもたちはみな踊る after the quake』など。新国立劇場では『イロアセル』を書き下ろしたほか、『昔の女』の演出を手掛ける。



2021年12月

あーぶくたった、にいたった

Bubbling and Boiling

小劇場

●会員先行販売期間:2021年11/3(水・祝)~11/5(金)

●一般発売日:2021年11/7(日)

料金 A:6,600円 B:3,300円

作:別役 実

Written by BETSUYAKU Minoru

演出:西沢栄治

Directed by NISHIZAWA Eiji

出演:山森大輔、浅野令子、木下藤次郎、稲川実代子、龍昇

Cast: YAMAMORI Daisuke, ASANO Reiko, KINOSHITA Tojiro, INAGAWA Miyoko, RYU Noboru

作品

一年間かけて試演を重ね、その都度、演出家と芸術監督、制作スタッフが協議し、上演作品がどの方向に育っていくのか、またその方向性が妥当なのか、そしてその先の展望にどのような可能性が待っているのかを見極めていく「こつこつプロジェクト」。時間に追われない稽古の中で、作り手の全員が問題意識を共有し、作品への理解を深め、舞台芸術の奥深い豊かさを一人でも多くの観客の方々に伝えられる公演となることを目標とします。

第一期は2019年3月から20年3月まで行われました。演出家の西沢栄治は、プロジェクトがスタートした「令和」という新たな時代に、「昭和」という時代とそこに生きた名もなき人々について思いをはせ、別役実がさまざまなかたちで描き続けた「小市民」シリーズ、なかでもこの『あーぶくたった、にいたった』に惹かれました。ネット上での承認欲求、自己発信だらけの現代において、もはや絶滅危惧種となったともいえる「小市民」の有り様を見つめ捉えなおすことで、生活者レベルの日本人論にたどり着きたいという西沢。別役戯曲を鮮やかに立体化し、次世代にその魅力を伝えます。

物語

ある婚礼で幕が上がる。新郎新婦は、まだ生まれぬ子どもとの将来を想像している。会話の中で彼らの子どもはどんどん成人し、仰天な顛末を迎えてしまう。楽しい新婚時代から子どもも生まれ落ち着いた結婚生活、そして老夫婦へ。幾千万の名もなき人間が会おう最終景、彼らの上に雪がチラチラと舞いはじめる・・・

演出家からのメッセージ

西沢栄治

知る人ぞ知る、「こつこつプロジェクト」笑。一年かけて戯曲に寄り添うなんてことは初めての経験で、コツコツ地道にやるのが苦手な私には、まさに未知の企画でした。

けれどもそのおかげで、自分が手掛けるとは思ってもいなかった別役作品を知り、その魅力と出会えたわけですから、人生巻き込まれてみるものです。有り難い限り。

『あーぶくたった、にいたった』は "小市民シリーズ" と呼ばれる作品群の中のひとつです。

かつてこの国には、ひたすらに普通であることを願い、昭和という時代をつつましく生きた小市民たちがいた。今ではそんな価値観も忘れられてしまったかのようだが、その名もなき人々に思いをはせることで、僕らなりの「日本人論」にたどり着きたい、そんなふうに考えています。

平成がいつの間にか終わり令和も始まったこの時期に、わざわざ「昭和」をやろうってんだから、古い奴だとお思いでしょうが、今の世の中、右も左も真っ暗闇じゃござんせんか。新しい生活様式なんてものが求められるような今だからこそ、この作品を通して見えてくるものがあるはずです。

とはいえ、みなさまにはクスクス笑いながら観ていただきたい。なんたって別役さんのホンに絶対的に面白いのだ。あとは現場の責任。がんばります。

スタッフ プロフィール

別役 実

BETSUYAKU Minoru

劇作家、小説家、エッセイスト。1937年旧満州（現、中国東北部）生まれ。日本の不条理演劇を確立した第一人者。ベケットらの不条理劇に影響を受け、鈴木忠志らと劇団「自由舞台」（後の早稲田小劇場）を創設。その旗揚げ公演であった戯曲『象』（62年）で注目され、『マッチ売りの少女』（66年）と『赤い鳥の居る風景』（67年）で第13回（新劇）岸田國士戯曲賞を受賞。130本を超える劇作の他、童話、ジョークエッセイ（『虫づくし』『もののけづくし』などの「〜づくし」シリーズ）、衝撃的な事件の闇に包まれたメカニズムを鋭敏な目で分析した犯罪エッセイなど、その関心は森羅万象に及ぶ。2020年3月3日逝去。



西沢栄治

NISHIZAWA Eiji

2000年、プロデュース形式の JAM SESSION にて演出を始める。ギリシャ劇や歌舞伎などの古典から現代劇まで、まっすぐに芝居をつくる心意気で活動中。04年、日本演出家協会主催の「若手演出家コンクール 2003」にて最優秀賞を受賞。『フランドン農学校の豚』『楽屋』『雨の夏、三十人のジュリエットが選ってきた』、「喜劇昭和の世界」三部作シリーズ、『天保十二年のシェイクスピア』『わが町』『四谷怪談』『夏の夜の夢』『ヴェニス商人』『牡丹燈籠』『女の平和』など。



アンチポデス(仮題)

The Antipodes

小劇場

●会員先行販売期間:2022年3/5(土)~3/7(日)

●一般発売日:2022年3/13(日)

作:アニー・ベイカー

Written by Annie BAKER

翻訳:小田島創志

Translated by ODASHIMA Soshi

演出:小川絵梨子

Directed by OGAWA Eriko

作品

小川絵梨子芸術監督4年目のシリーズ企画は「正論≡極論≡批判≠議論」。対面を避け言葉だけのコミュニケーションとそのツールを手に入れた現代人が、一方的に投げつける、あるいは、投げつけられる言葉の多くは、時に正論のようでただの批判になっていないだろうか、極論をぶつけるだけで議論として成立させていないのではないか。時として、相手を傷つけることが目的になっていないか。

人に渡す言葉の在り方を、他者との関係性を、今一度、立ち止まって考えたい、というこのテーマのもとお贈りする第一弾は、『フリック』でピューリッツァー賞も受賞したアニー・ベイカーによる『アンチポデス』(仮題)。「地球の裏側」を意味するタイトルを冠した戯曲に登場するのは、閉ざされた部屋で物語を紡ぎ出す、という作業をしている8人の男女。危機に陥った世界にとって「ものがたり」がどのような価値を持つのか、観客と一緒に考えたいと、小川絵梨子自らが演出をいたします。

物語

ある会議室に男女8人が集められている。

そこがどこであるのか、いつであるのかも不明だが、リーダーであるサンディのもと、彼らは企画会議として「物語を考える」ためのブレインストーミングを始める。新たなヒット作を生むためである。

サンディは「ドワーフやエルフやトロールは無し」と言う。恐ろしさや怖さの中にも消費者が親近感を覚えるリアルな物語を採用したい、と。

既存の作品の焼き増しではない新しい物語を生み出すために、参加者たちは競うようにして自分の「リアル」な物語を披露していく。やがて会議室の外に世界の終末のような嵐が訪れる。

翻訳家からのメッセージ

小田島創志

「物語」の物語—アニー・ベイカーの『The Antipodes』を一言で表すとそうなるかもしれない。ただしそれは、ただの空想ということでは決してない。物語が生まれる背景には現実が、社会的な事件、個人的な事件、あるいは何気ない日常が存在する。では、物語は現実とどうかかわるのか？物語がこの現実世界において果たす役割は—？

こうした問いを突き詰めていくと、改めて気づかされる。物語も現実も、語られていない要素が表面下に無限に潜んでいるのだ。『The Antipodes』という作品自体、曖昧な部分は数多い。彼らは何のために、唯一無二の物語を作ろうとしているのか。彼らが話す体験談は、どこまで真実で、何を表しているのか。そもそもなぜ、「彼ら」が選ばれたのか。舞台の外で何が起きているのか。語られず、曖昧なままほのかに浮かび上がってくる、物語の背後にあるもの、言葉の背後にあるもの、現実の背後にあるものの存在。日本で上演される「物語」としての『The Antipodes』が、今を取り巻く現実の何を照射するのか、翻訳者としても考え続けたいと思っている。

演出家からのメッセージ

小川絵梨子

『アンチポデス』は不思議な話です。ある会議室に8人の人間が集まり、物語を生み出すために話し合いをしていますが、それが何のためなのかは語られません。新しいテレビドラマの脚本なのか、映画なのかそれとも全く別の何かなのか、観客には明かされないまま8人の話し合いが続いていきます。8人は締め切りとプレッシャーに格闘しつつ、なんとかして「まだ誰も聞いたことのないような新しい物語」を作り上げようと必死で頭を捻ります。しかしやがて、チームであるはずの8人は閉ざされた空間の中で、お互いへの苛立ちや不安を募らせていき、みんなで作っているはずの物語も迷走を始めていきます。

本作はシリーズ「正論≠極論≠批判≠議論」第一弾の作品となります。人と人のコミュニケーション、人が集団として存在する時の難しさ、痛み、孤独などをヒリヒリと生々しく描いていければと思っています。

スタッフ プロフィール

アニー・ベイカー

Annie BAKER

劇作家。1981年アメリカ、マサチューセッツ州出身。ニューヨーク大学卒業後、2009年にニューヨーク市立大学ブルックリン校にてMFAを取得。これまでの主な戯曲に『Body Awareness』『Circle Mirror Transformation』『The Aliens』『John』などがある。『Circle Mirror Transformation』と『The Aliens』でオビー賞受賞。12年に脚色を手掛けた『ワーニャ伯父さん』では衣裳デザインも行った。作品はこれまでに米国内150以上の劇場および世界各地で上演されている。17年にマッカーサーフェローシップ受賞。現在はテキサス大学オースティン校にて教鞭を執る。

14年にオビー賞およびビュリッツァー賞を受賞した『フリック』は新国立劇場で16年に上演されている。

小田島創志

ODASHIMA Soshi

1991年、東京生まれ。東京大学大学院在籍。お茶の水女子大学、東京藝術大学、明治薬科大学非常勤講師。専門はハロルド・ピンター、トム・ストップード、デイヴィッド・ヘアを中心とした現代イギリス演劇研究。また、英語圏における小説のアダプテーション（翻案）について、研究成果を日本英文学会などで発表。戯曲翻訳としては『受取人不明 ADDRESS UNKNOWN』、新国立劇場では『タージマハルの衛兵』が上演されている。また、講談社ウェブマガジン『クーリエ・ジャポン』で記事翻訳を担当。

小川絵梨子

OGAWA Eriko

※3 ページを参照



ロビー・ヒーロー

Lobby Hero

小劇場

●会員先行販売期間:2022年4/2(土)~4/4(月)

●一般発売日:2022年4/10(日)

作:ケネス・ロナーガン

Written by Kenneth LONERGAN

翻訳:浦辺千鶴

Translated by URABE Chizuru

演出:桑原裕子

Directed by KUWABARA Yuko

作品

小川絵梨子芸術監督4年目のシリーズ企画「正論≡極論≡批判≠議論」第二弾は『ロビー・ヒーロー』。アカデミー賞脚本賞受賞で話題となった映画『マンチェスター・バイ・ザ・シー』のケネス・ロナーガンが執筆しました。自分のやりたいことを見いだせずロビーの警備員として過ごしているある若者が、おもわず口を滑らせてしまったことから起きるトラブルとその顛末を描いています。ジェンダー、上司と部下、人種など、さまざまな格差のレイヤーがある中で、彼なりに考えて起こした行動は、果たして正義なのか、正論とはいったい何なのか…。自己承認欲求がSNSであふれ出す現在、さまざまな角度から考えられ身近に感じる戯曲です。2001年オフ・ブロードウェイ初演、翌年にはウエストエンドで上演、18年にはブロードウェイでリバイバル上演されました。新国立劇場初登場の桑原裕子を演出に迎え、日本初演でお贈りします。

物語

マンハッタンにある高層マンションの広いロビー。警備担当のジェフは、人生の目的もなくこの仕事についている。クソ真面目で向上心のある上司ウィリアムは、不良の弟が殺人罪に問われて心配していた。見回りに来た有能な警察官ビルと相棒の新人見習いのドーン、どうも二人はいい仲のようだ。ロビーで待っているドーンに、ビルの訪問先は女性だと口を滑らしてしまうジェフ。動揺したドーンは、勤務時間中の行動を上報告するとビルに噛みつくが、本採用させないぞと逆に圧をかけられてしまう。

翌日。弟のアリバイを偽証したウィリアムに対して、自分が何をすべきか悩むジェフ。ドーンは本当のことを話すのがあなたの責任だと説得するが…。

翻訳家からのメッセージ**浦辺千鶴**

2001年アメリカで初演されたこの作品が書かれたのは1999年だという。20年以上前の作品だが、人種や女性差別、格差の問題など、あまりに「今」の物語であることに驚かされた。20年経っても人々は Black Lives Matter と叫び、セクハラ・パワハラ被害を日々ニュースが伝えている。問題の複雑さ、根深さを思い知らされる。

そんな中でも登場人物たちは必死に生きる。この世界を良くしたい、誰もが幸せに生きられる世の中にしたい、そのために自分も貢献したいと大きな夢を描く。そんな大きな夢を前に、小さな勇気が振り絞れずに悩む。「正義」とはなにか悩み、人間関係に悩み、夢と現実のギャップに悩み、一筋縄ではいかない人間の多面性に悩む。悩みながらも自分で出した答えを受け止め、必死に前を向いていく。

人間は多面的だ。良いだけの人もいなければ、悪いだけの人もいない。そもそも良い悪いの基準も時代や状況で変わったりする。最後に頼れるのは自分の中の正義だと思うが、独善的にならず柔軟な心で判断できることこそが求められるのだと思う。そんなことを軽妙でテンポの良い会話の中に繊細かつずっしりと存在させているこの作品は、とても優れた人間ドラマだと思う。

演出家からのメッセージ**桑原裕子**

今年の春、コロナ禍にあって私は、自らの憤懣をいかに上品に、正当性を持って言語化するかということについて毎時毎分考えるというような、不毛な作業をしていました。

政治の欺瞞、社会の分断。格差や多様性において異なる意見を持つ人同士の無理解。そういったものへの憤りを醜いまま放置せず、先端を知り、正しく言葉にしたい。そんな情熱に一時、燃えました。

しかしそれらを例えば140文字の SNS にまとめたところでなんたる空しさ。誰かと理解を深め合えるわけもなく、むしろ見ず知らずの他者から思いもよらぬ反論をぶつけられて狼狽し、知人と稚拙な口論で疎遠になる始末。

この熱は結局のところ、中学時代に親と喧嘩したとか友達とうまくいかないとか脇に毛が生えてきたとか、理由の分からぬ不安や怒りに支配されたとき、枕に突っ伏して吠えたり、足をばたつかせて壁に穴を開けたりしたのとそう変わらない、行き場のない攻撃性の発憤なのだと悟りました。そして今の時代、「正しさ」があまりにも簡単に言語化でき、発信され、私のように情熱の怒りを持った人びとによって、あちこちで暴力を振りまいているかを思いました。

そんなときに『ロビー・ヒーロー』に出会いました。あらゆる角度の「正しさ」が絡まり、ねじれ、じゃあどうすれば良かったのと登場人物それぞれの立ち位置から葛藤しました。

正義や正解をたやすく定義できない。しかしそれこそが演劇の素晴らしさだと思い出し、この作品と共に情熱を注ぐべき場所へ帰ろうと思いました。

スタッフ プロフィール

ケネス・ロナーガン

Kenneth LONERGAN

劇作家、脚本家、監督。1962年ニューヨーク生まれ。高校時代から脚本を執筆し、ウェズリアン大学、ニューヨーク大学にて脚本・演出を学ぶ。

脚本、監督を手掛けた映画『マンチェスター・バイ・ザ・シー』（2016年）は、アカデミー賞、ニューヨーク映画批評家協会賞、全米脚本家協会賞、全米映画批評家協会賞、英国アカデミー賞の脚本賞、ほか多数受賞し話題となった。同じく脚本、監督した『ユー・キャン・カウント・オン・ミー』（00年）はアカデミー賞脚本賞ノミネート、サンダンス映画祭2000グランプリ、そして01年の最優秀脚本賞としてウォルド・ソルト脚本賞、ニューヨーク映画批評家協会賞、ロサンゼルス映画批評家協会賞、全米脚本家協会賞、AFI賞の最優秀作品賞及び最優秀新人作家賞を受賞。共同脚本の映画『ギャング・オブ・ニューヨーク』（02年）は、全米脚本家協会賞とアカデミー賞の最優秀脚本賞にノミネートされた。

劇作家としては、ニューヨークで、01年『ロビー・ヒーロー』（ローレンス・オリヴィエ賞、ドラマ・デスク・アワード戯曲賞、アウター・クリティクス・サークル賞戯曲賞およびジョン・ギャスナー劇作賞ノミネート）、00年『ウェイバリー・ギャラリー』（01年ピューリッツァー賞、ドラマ・デスク・アワード戯曲賞、アウター・クリティクス・サークル賞戯曲賞ノミネート）、1996年『これが僕らの青春』（ドラマ・デスク・アワード戯曲賞ノミネート）が上演されている。『ロビー・ヒーロー』と『これが僕らの青春』はウエストエンドでも上演された。

浦辺千鶴

URABE Chizuru

上智短期大学英語学科、東京女子大学文理学部英米文学科卒業。小田島恒志、山内あゆ子両氏に師事。2009年、新国立劇場『シュート・ザ・クロウ』（小田島恒志氏との共訳）で本格的に翻訳家としてデビュー後、新国立劇場において、『スカイライト』『君が人生の時』『パッション』『星ノ数ホド』を翻訳。そのほか主な翻訳作品に『死と乙女』『ホイッスル・ダウン・ザ・ウィンド』『スケリグ』『マクガワン・トリロジー』『ファン・ホーム』『CRIMES OF THE HEART』など。『星ノ数ホド』、俳優座劇場『月の獣』の翻訳に対し、第8回小田島雄志・翻訳戯曲賞を受賞。



桑原裕子

KUWABARA Yuko

東京都出身。劇作家・演出家・俳優。劇団 KAKUTA 主宰。劇団では作・演出、また全本公演に出演。ほかにも阿佐ヶ谷スパイダーズ、双数姉妹、拙者ムニエル、人気劇団や『冒した者』『パール・ギェント』『鯨よ！私の手に乗れ』『俺節』『忘れてもらえないの歌』など多数出演している。俳優業のほかに、テレビ『中学生日記』『時々迷々』『温泉マル秘大作戦第16作』『ぬけまいる～女三人伊勢参り』、NHK ラジオシアター、映画『ランプリングハート』などの脚本を執筆。他にも、舞台『バンダラコンチャ』（演出）、『あつ苦しい兄弟』（作）、『熱風』（作・演出）、2010～13年『ピーターパン』（潤色・作詞・演出）、『朽ちるまにまに』（作・演出）など、多方面で活躍の場を拓けている。また、劇団作品『ひとよ』が2019年白石和彌監督で映画化されている。07年『甘い丘』が岸田國士戯曲賞に初ノミネート、同作の再演で09年に第64回文化庁芸術祭・芸術祭新人賞（作・演出）、16年『痕跡』で第18回鶴屋南北戯曲賞、18年『荒れ野』（作・演出）で第5回ハヤカワ「悲劇喜劇」賞及び第70回読売文学戯曲・シナリオ部門を受賞する。18年穂の国とよはし芸術劇場芸術文化アドバイザー就任。



来訪(仮題)

Der Besuch der alten Dame

小劇場

●会員先行販売期間:2022年5/1(日)~5/3(火・祝)

●一般発売日:2022年5/7(土)

作:フリードリヒ・デュレンマット

Written by Friedrich DÜRRENMATT

翻訳:小山ゆうな

Translated by KOYAMA Yuna

演出:五戸真理枝

Directed by GONOHE Marie

作品

シリーズ「正論≡極論≡批判≠議論」第三弾は、フリードリッヒ・デュレンマットの代表作『来訪』をお贈りします。1956年に初演された本作は、全体主義へと傾倒していった社会への痛烈なアンチテーゼとして話題を呼び、その後、世界各国で多くの演出家の手によって上演され、舞台のみならず、映画やオペラ、ミュージカルとしても上演され続けている名作です。

議論を重ねた上での他者との対話が、人間関係にどのような影響を及ぼし、どのような社会を形成するのか。演出に、新国立劇場では『どん底』での大胆でユニークな演出も記憶に新しい五戸真理枝を迎え、お届けするシリーズ最終作。どうぞご期待ください。

物語

小都市ギュレン。「ゲーテが泊まり、ブラームスが四重奏曲を作った」文化都市も昔の話、今は荒れはて、町全体が貧困に喘いでいる。

ある日、この町出身の大富豪クレール・ツァハナシアン夫人が帰郷する。町の人たちは、彼女が大金を寄付し、町の経済を復興させてくれるのではないかと期待に胸を膨らませる。

夫人は人々の思惑通り、巨額の寄付を申し出るが、同時に一つだけ条件をつける。

「寄付はするが、正義の名において、かつて私をひどい目に遭わせた恋人を死刑にしてほしい」…。

翻訳家からのメッセージ

小山ゆうな

2020年6月、芸術監督小川さんの強い思いと劇場の皆様の万全の対策のもと、コロナ禍による劇場閉鎖から再開一本目という新国立劇場の作品（『願いがかなうぐつぐつカクテル』）に、演出として関わらせて頂きました。

あれから、一年、社会は、団結したかと思うと、当時予測していた以上に、再びより深い分断へと向かう事を繰り返し、閉塞感を増しているように感じます。

そんな今に正に合っていて、新しさすら感じさせるデュレンマットの作品『来訪』を上演との事、楽しみにしています。

デュレンマットはドイツ語圏を代表する劇作家の一人でスイス人、ナチスの時代を生き、グロテスクに浮かび上がる社会と人間を描きました。

本作を、デュレンマットは[悲劇的喜劇]と呼んでいます。「正義」の名の下、周到に計画して大復讐を企てる億万長者の老貴婦人の意思により、「ヒューマニズム」あふれる善人であると自身でも思っている町の貧しき人達が、いつの間にか全体主義的に仲間を死に追いやる様が、悲劇でありながらも喜劇的ですからあるというアイロニカルな作品。

デュレンマットの計算し尽くされた言葉達をいかに日本語に出来るか五戸さんと相談しながら訳していきたいと思っております。

演出家からのメッセージ

五戸真理枝

私は社会の中で生きるうちに、脆くてはかない自分の心を守るために数々の武装法を身につけてきました。勉強するために、働くために、幸せでいるために。例えば、“文句の多い隣人の話は聞いている姿勢で聞き流す”というのも、武装法の一つです。私はもはや自分が武装していることを意識することなく、でも常に心に鎧をつけて生きている人間です。

私が誰かと“真の対話”をするためには、この心の武装を解く必要があると思うのですが、一度身につけた鎧を脱ぐことは容易ではありませんし、もしかしたらもう脱げないかもしれません。

そんな私でも、劇場にいて劇世界に浸っている時間だけは、不思議なことにほぼ全面的に心の武装が解除されていきます。いや、そんな気がしています。なので、そういう、演劇という特殊な時間を使って、“対話の難しさ”について考えてみるというのは、ユーモアにあふれた試みだと感じます。

デュレンマット氏の人間や社会を見る目の鋭さと奔放な遊び心。若い男女の心のすれ違いが何十年という時を超えて増幅され、小都市の命運まで揺さぶっていくという展開のダイナミックさには驚かされます。諧謔精神を胸に、哀しき人間の姿を鮮明に立ち上げてみたいと思います。

スタッフ プロフィール

フリードリヒ・デュレンマット

Friedrich DÜRRENMATT

スイスの作家（1921－1990）。ベルン州コノルフィンゲンに牧師の息子として生まれる。ベルン大学とチューリヒ大学で哲学などを専攻。21歳で処女作『クリスマス』を執筆。24歳のときに短編『老人』が初めて活字となる。同年、最初の戯曲『聖書に曰く』の執筆を開始。50年代から60年代にかけて発表した喜劇によって劇作家として世界的な名声を博したほか、推理小説『裁判官と死刑執行人』がベストセラーに。88年、演劇から離れ、自伝など散文の創作に専念することを発表。晩年は自叙伝『素材』の執筆に打ち込む。90年、ヌシャテルの自宅で死去。代表作に『物理学者たち』など。

小山ゆうな

KOYAMA Yuna

演出家・劇作家・翻訳家。ドイツ・ハンブルク生まれ。早稲田大学第一文学部演劇専修卒業。劇団NLT演出部を経て現在はフリー。アーティストユニット「雷ストレンジャーズ」主宰。2017年『チック』の翻訳・演出で、第10回小田島雄志・翻訳戯曲賞、第25回読売演劇大賞優秀演出家賞を受賞。そのほか、主な翻訳・演出作品にニール・サイモン『ローズのジレンマ』（東宝）、ヤエル・ロネン『冬の旅』（ドイツ文化センター）、ケストナー『雪の中の三人』（劇団俳優座）

演出作品に『ロボット・イン・ザ・ガーデン』（劇団四季）、雷ストレンジャーズ 演劇ジェット紀行 スウェーデン編『父』、ノルウェー編『フォルケフィエンデー人民の敵ー』子どもと大人のための朗読劇『青い鳥』など。新国立劇場では『願いがかなうぐつぐつカクテル』を演出。



五戸真理枝

GONOHE Marie

2005年、文学座付属演劇研究所に45期生として入所10年、座員に昇格。演出助手などとして座内の多数の公演に関わる。16年、文学座アトリエの会、久保田万太郎作『舵』で初演出。『桜の園』『阿修羅のごとく』『三人姉妹』『年あらそい』などを演出。演出助手としては『岸 リトラル』『管理人』『坂の上の家』『娼年』『チック』『中橋公館』『食いしん坊万歳！正岡子規青春狂詩曲』などに参加。新国立劇場では『どん底』の演出のほか、『オレスティア』『城塞』に演出助手として参加。演出のほか、戯曲や童話の執筆も手掛ける。



Drama

プロジェクト

こつこつプロジェクト —デイベロップメント—

ロイヤルコート劇場✕新国立劇場
劇作家ワークショップ

ギャラリープロジェクト

こつこつプロジェクト —ディベロップメント—

KOTSUKOTSU Project —Development—

第二期

概要

「作り手が通常の一か月の稽古ではできないことを試し、作り、壊して、また作る場にしたい。」という小川絵梨子芸術監督の意を受け、一年間を通して作品を育てていくプロジェクト。具体的には、3～4か月ごとに試演を実施し、その都度、演出家と芸術監督、制作スタッフが協議を重ね、上演作品がどの方向に育っていくのか、またその方向性が妥当なのか、そしてその先の展望にどのような可能性が待っているのかを見極めていきます。時間に追われない稽古のなかで、作り手の全員が問題意識を共有し、作品への理解を深めることで、舞台芸術の奥深い豊かさを一人でも多くの観客の方々に伝えられる公演となることを目標とします。

2020年3月に第一期を終え、新たにこの主旨に賛同いただけた三人の演出家が、第二期に参加いたします。

参加演出家

- 福山桜子
- 船岩祐太
- 柳沼昭徳

参加演出家 プロフィール

福山桜子

FUKUYAMA Sakurako

日本においてデヴィッド・ルヴォー、三谷幸喜作品などに演出スタッフとして参加後、渡米。ニューヨーク・オフ・ブロードウェイや映像作品などで脚本、演出に携わり、2000年以降、石岡瑛子をはじめ世界的に著名なクリエイターのスタッフとして活動。現在は、舞台・映画・PV映像等の演出・脚本を手掛けている。
近年の主な作品：『Fate/Grand Order THE STAGE 冠位時間神殿ソロモン』(20年／脚本・演出・作詞／東京国際フォーラム・ホールC、他)、『ヘドウィグ・アンド・アングリーインチ』(19年／訳・演出／主演：浦井健治／東京EX THEATER ROPPONGI&ZeppTokyo、他)、多数の舞台、映画、映像作品に携わる。



船岩祐太

FUNAIWA Yuuta

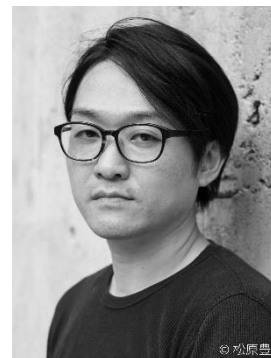
桐朋学園芸術短期大学芸術科演劇専攻卒業。地人会の木村光一氏、演劇企画集団THE・ガジラの鐘下辰男氏に師事。また小劇場から商業演劇まで様々な作品に演出助手、演出部として参加。2007年に演劇集団 砂地を結成。演劇集団 砂地では古典戯曲を原典とした作品を中心に発表。主な作品に演劇集団 砂地『Disk』(世田谷ネクストジェネレーション)『アトレウス』、『楡の木陰の欲望』『胎内』など。



柳沼昭徳

YAGINUMA Akinori

近畿大学在学中の1999年に「烏丸ストロークロック」を旗揚げ、京都を拠点に国内各地で演劇活動を行う。作品のモチーフとなる地域での取材やフィールドワークを元に短編作品を重ね、数年かけて長編作品へと昇華させていく創作スタイルが評価されている。2015年京都芸術センター主催演劇計画Ⅱ『新・内山』にて第60回岸田國士戯曲賞にノミネートされる。18年、20年と東京芸術劇場 芸劇eyesにて『まほろばの景』シリーズを上演、話題を呼ぶ。平成28年度京都市芸術新人賞受賞。



ロイヤルコート劇場×新国立劇場 劇作家ワークショップ

Royal Court Theatre × New National Theatre, Tokyo Playwrights' Workshop

概要

2019年5月より、英国ロンドンのロイヤルコート劇場と新国立劇場が協力して行って来た劇作家の為のワークショップ。コロナ禍の中、幾度かの延期となりながら、21年1月、最後のワークショップが開催され、14人の日本の若い劇作家たちが、それぞれに新作戯曲を創り上げました。

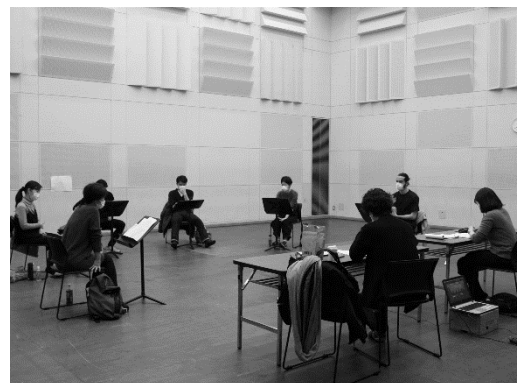
19年5月の第一フェーズ、同年12月の第二フェーズにはロイヤルコート劇場からワークショップ全体をまとめる企画担当者、文芸担当者、そして劇作家が来日し、劇作家たちとワークショップやディスカッションを重ね、「劇作」について、その方法論や考え方を掘り下げていきました。

20年6月に実施予定だった第三フェーズは、その内容を第三フェーズ-A（戯曲についてのセッション）、第三フェーズ-B（戯曲を声に出すセッション）、と分割し、同月、第三フェーズ-Aをロンドンと東京をオンラインで繋いでのリモートワークショップにて実施し、作品のさらなる推敲を進めました。

21年1月には、2名の演出家と12名の俳優も参加し、第三フェーズ-Bを開催、彼ら書き上げてきた戯曲をさらに深く考察し、ディスカッションを重ねました。2年近くのワークショップ期間を掛けて創作された新作戯曲が今後どの様に育って行くのかご期待ください。

開催時期と内容

- | | |
|------------|------------------------|
| 2019年1月～2月 | オープンコールにて参加者を募集。 |
| 3月 | 19歳～35歳の14人の劇作家の参加が決定。 |
| 5月 | 第一フェーズ 開催 |
| 8月 | 第一稿 提出 |
| 12月 | 第二フェーズ 開催 |
| 2020年3月 | 第二稿 提出 |
| 6月 | 第三フェーズ-A オンラインで実施 |
| 9月 | 第三稿 提出 |
| 2021年1月 | 第三フェーズ-B |
| 5月 | 第四稿 〆切予定 |



ギャラリープロジェクト

GALLERY Project

概要

-ギャラリープロジェクトとは？

新国立劇場では小川絵梨子芸術監督の方針の下、演劇の作り手の方々との交流を深め積極的に連携して、幅広い観客層に演劇をお届けしたいと思っています。そのために、一般の方々に向けてのワークショップや講演などを実施しており、その一環としての演劇イベントが「ギャラリープロジェクト」です。

舞台という豊かな世界を、一人でも多くの皆様に楽しんでいただければ幸いです。

それぞれの詳細は、随時ウェブサイト等で発信します。

2020年夏～冬は、新型コロナウイルス感染予防、拡散防止対策のため、ギャラリープロジェクトをご自宅でもお楽しみいただけるよう、下記ラインアップや絵本読み聞かせ等を「劇場でもおうちでも」と題してオンライン配信いたしました。

○トークセッション

〈演劇のおしごと〉

演劇に携わるクリエイターや団体との「横の繋がり」を広げ、その仕事に迫るトークセッション。

毎回様々なジャンルからゲストを迎え、進行役の小川絵梨子芸術監督と普段なかなか知ることができない仕事について掘り下げていきます。

〈演劇断（えんげきばなし）〉

毎回様々なゲストを迎えて、演劇に関する「あんな話、こんな話」を語っていただくシリーズ企画です。

小川絵梨子芸術監督が進行役となって、ゲストと舞台の面白さ、奥深さを探っていきます。

○ワークショップ

毎年夏休みの時期、中高生を対象に、日本の演劇界の第一線で活躍するスタッフ、クリエイター、俳優の特別講義やワークショップを行う「中高生のためのどっぷり演劇days」を開催しています。

○公演ガイドツアー

公演中の劇場にて、公演担当プロデューサーが舞台美術の説明や開幕に至るまでの足跡等を解説いたします。

Drama

公演一覧

開場記念公演～2020/2021 シーズン

シーズン	演目	作	訳・脚色	演出	公演初日
開場記念公演	★紙屋町さくらホテル	井上ひさし		渡辺浩子	1997. 10/22
	[蒲田行進曲完結編] 銀ちゃんが逝く	つかこうへい		つかこうへい	1997. 11/13
	夜明け前	原作 島崎藤村	脚色 村山知義 補訂脚本 津上 忠	木村光一	1997. 12/04
	リア王	ウィリアム・シェイクスピア	松岡和子	鶴山 仁	1998. 1/17
1998/ 1999	★虹を渡る女	岩松 了		岩松 了	1998. 5/07
	幽霊はここにいる	安部公房		串田和美	1998. 5/12
	★今宵かぎりには… 1928 超巴里井主義宣言の夜	竹内統一郎		栗山民也	1998. 6/12
	★音楽劇 ブッダ	原作 手塚治虫	脚本 佐藤 信	栗山民也	1998. 9/07
	THE PIT フェスティバル				
	カストリ・エレジー スタインベック「二十日鼠と人間」 より	脚本 鐘下辰男		鐘下辰男	1998. 10/03
	神々の国の首都	坂手洋二		坂手洋二	1998. 10/17
	寿歌	北村 想		北村 想	1998. 10/29
	ディア・ライアー すてきな嘘つき	ジェローム・キルティ	丹野郁弓	宮田慶子	1998. 11/04
	野望と夏草	山崎正和		西川信廣	1998. 12/02
	★新・雨月物語		脚本 鐘下辰男	鶴山 仁	1999. 1/11
	子午線の祀り	木下順二	演出 観世栄夫／内山 鶴／酒井 誠／高瀬精一郎		1999. 2/03
	セツアンの善人	ベルトルト・ブレヒト	松岡和子	串田和美	1999. 5/18
	羅生門	原作 芥川龍之介		構成・演出 渡辺和子	1999. 6/04
棋人 一チーレン	過 士行	菱沼彬晁	林 兆華	1999. 7/01	
1999/ 2000	キーン 或いは狂気と天才	J.P.サルトル 上演台本 栗山民也／江守 徹	鈴木力衛	栗山民也	1999. 10/04
	美しきものの伝説		宮本 研	木村光一	1999. 11/04
	—森本薫の世界—				
	かくて新年は 怒濤	森本 薫		宮田慶子	1999. 12/08
	華々しき一族	森本 薫		マキノノゾミ	2000. 1/11
	★新・地獄変	原作 芥川龍之介	脚本 鐘下辰男	鶴山 仁	2000. 3/23
	なよたけ	加藤道夫		木村光一	2000. 4/11
	夜への長い旅路	ユージン・オニール	沼澤治治	栗山民也	2000. 5/11
2000/ 2001	マクベス	ウィリアム・シェイクスピア	福田恒存翻訳より 潤色 鐘下辰男	鐘下辰男	2000. 9/08
	ブロードウェイ・ミュージカル 太平洋序曲	作曲・作詞 スティーブ・ソンドハイム 台本 ジョン・ワイドマン	翻訳・訳詞 橋本邦彦	演出・振付 宮本亜門	2000. 10/02
	欲望という名の電車	テネシー・ウィリアムズ	鳴海四郎	栗山民也	2000. 10/20
	シリーズ「時代と記憶」				
	★memorandum メモランダム	構想・構成 ダムタイプ			2000. 11/27
	★母たちの国へ	松田正隆		西川信廣	2001. 1/10
	★ピカドン・キジムナー	坂手洋二		栗山民也	2001. 2/10
	★こんにちは、母さん	永井 愛		永井 愛	2001. 3/12
	★夢の裂け目	井上ひさし		栗山民也	2001. 5/08
	紙屋町さくらホテル	井上ひさし		渡辺浩子／井上ひさし	2001. 4/04
	贗作・桜の森の満開の下	野田秀樹		野田秀樹	2001. 6/01

★=新作

シーズン	演目	作	訳・脚色	演出	公演初日
2001/ 2002	海外招待作品 Vol.1 太陽劇団 堤防の上の鼓手	エレヌ・シクスー	字幕翻訳 松本伊瑳子	アリアヌ・ムヌーシュキン	2001. 9/07
	コペンハーゲン	マイケル・フレイン	平川大作	鶴山 仁	2001. 10/29
	★美女で野獣	荻野アンナ		宮田慶子	2001. 12/10
	シリーズ チェーホフ・魂の仕事				
	Vol.1 かもめ	アントン・チェーホフ	英訳 マイケル・フレイン 翻訳 小田島雄志	マキノノゾミ	2002. 1/11
	Vol.2 くしゃみ/the Sneeze	アントン・チェーホフ	台本 マイケル・フレイン 翻訳 小田島恒志	熊倉一雄	2002. 2/28
	Vol.3 ★「三人姉妹」を追放されし トゥーゼンパフの物語	岩松 了		岩松 了	2002. 4/01
	Vol.4 ワーニャおじさん 四幕の田園生活劇	アントン・チェーホフ	小野理子	栗山民也	2002. 5/09
	Vol.5 櫻の園	アントン・チェーホフ	潤色 堀越 真(神西清翻訳による)	栗山民也	2002. 6/21
★その河をこえて、五月	平田オリザ/金 明和		李 炳焄/平田オリザ	2002. 6/03	
2002/ 2003	海外招待作品 Vol.2 国際チェーホフ演劇祭 in モスクワ ハムレット	ウィリアム・シェイクスピア		ペーター・シュタイン	2002. 9/07
	ブロードウェイ・ミュージカル 太平洋序曲	作曲・作詞 スティーブン・ソンドハイム 台本 ジョン・ワイドマン	翻訳・訳詞 橋本邦彦	演出・振付 宮本亜門	2002. 10/11
	★アヤジルシ -誘われて	太田省吾		太田省吾	2002. 11/12
	シリーズ「現在へ、日本の劇」				
	①ピルグリム	鴻上尚史		鴻上尚史	2003. 1/14
	②浮標	三好十郎		栗山民也	2003. 2/19
	③マッチ売りの少女	別役 実		坂手洋二	2003. 4/08
	④サド侯爵夫人	三島由紀夫		鐘下辰男	2003. 5/26
	★涙の谷、銀河の丘	松田正隆		栗山民也	2003. 5/13
★ゴロヴリョフ家の人々	原作 サルティコフ・シチェドリ 脚本 永井 愛	翻訳 湯浅芳子 脚本 永井 愛	永井 愛	2003. 6/18	
2003/ 2004	★nocturne -月下の歩行者	構成 松本雄吉		松本雄吉	2003. 9/08
	★夢の泪	井上ひさし		栗山民也	2003. 10/09
	世阿彌	山崎正和		栗山民也	2003. 11/27
	シリーズ「女と男の風景」				
	①海外招待作品 Vol.3 香港・劇場組合 The Game /ザ・ゲーム	ウジェーヌ・イヨネスコの悲喜劇 『椅子』より 翻案 ジム・チム/ オリヴィア・ヤン	字幕 角田美知代	ジム・チム/ オリヴィア・ヤン	2004. 2/20
	② ★THE OTHER SIDE ／線のむこう側	アリエル・ドーフマン	水谷八也	孫 振策	2004. 4/12
	③★てのひらのこびと		鈴江俊郎	松本祐子	2004. 5/11
	④請願 -静かな叫び-	ブライアン・クラーク	吉原豊司	木村光一	2004. 6/22
	こんにちは、母さん	永井 愛		永井 愛	2004. 3/10
透明人間の蒸気	野田秀樹		野田秀樹	2004. 3/17	
ブロードウェイ・ミュージカル INTO THE WOODS	作詞・作曲 スティーブン・ソンドハイム 台本 ジェイムズ・ラバイン	翻訳・訳詞 橋本邦彦	演出・振付 宮本亜門	2004. 6/09	

★=新作

シーズン	演目	作	訳・脚色	演出	公演初日
2004/ 2005	THE LOFT 小空間からの提案				
	胎内	三好十郎		栗山民也	2004. 10/04
	◎ ★ヒトノカケラ	篠原久美子		宮崎真子	2004. 10/22
	★二人の女兵士の物語	坂手洋二		坂手洋二	2004. 11/08
	喪服の似合うエレクトラ	ユージン・オニール	沼澤治治	栗山民也	2004. 11/16
	★城	原作 フランツ・カフカ	構成 松本 修	松本 修	2005. 1/14
	シリーズ 笑い				
	①花咲く港	菊田一夫		鶴山 仁	2005. 3/14
	②★コミュニケーションズ 現代劇作家によるコント集	作 綾田俊樹/いとうせいこう/ケラリーノ・サンドロヴィッチ/杉浦久幸 高橋徹郎/竹内 佑/鄭 義信/土田英生/別役 実/ふじきみつ彦/武藤真弓 原作使用 筒井康隆		構成・演出 渡辺えり子	2005. 4/08
	③★箱根強羅ホテル	井上ひさし		栗山民也	2005. 5/19
	④うら騒ぎ ノイズ・オフ	マイケル・フレイン	小田島恒志	白井 晃	2005. 6/27
その河をこえて、五月	平田オリザ/金 明和		李 炳焄/平田オリザ	2005. 5/13	
海外招待作品 Vol.4 ベルリナー・アンサンブル アルトゥロ・ウイの興隆	ベルトルト・ブレヒト	イヤホンガイド翻訳 新野守広	ハイナー・ミュラー	2005. 6/22	
2005/ 2006	◎黒いチューリップ/盲導犬	唐 十郎		中野敦之	2005. 9/27
	◎屋上庭園/動員挿話	岸田國士		宮田慶子<屋上庭園> 深津篤史<動員挿話>	2005. 10/31
	母・肝っ玉とその子供たち -三十年戦争年代記	ベルトルト・ブレヒト	谷川道子	栗山民也	2005. 11/28
	ガラスの動物園	テネシー・ウィリアムズ	小田島雄志	イリーナ・ブルック	2006. 2/09
	十二夜	ウィリアム・シェイクスピア	脚本 山崎清介 小田島雄志翻訳による	山崎清介	2006. 3/07
	シリーズ「われわれは、どこへいくのか」				
	①★カエル	過 士行	菱沼彬晃	鶴山 仁	2006. 4/01
	◎ ②★マテリアル・ママ		岩松 了	岩松 了	2006. 4/19
	③★やわらかい服を着て	永井 愛		永井 愛	2006. 5/22
	④★夢の痲	井上ひさし		栗山民也	2006. 6/28
	ブロードウェイ・ミュージカル Into the Woods	作詞・作曲 スティーブン・ソンドハイム 台本 ジェイムズ・ラパイン	翻訳・訳詞 橋本邦彦	演出・振付 宮本亜門	2006. 5/19
2006/ 2007	★アジアの女	長塚圭史		長塚圭史	2006. 9/28
	「劇的な情念をめぐって」-世界の名作より-				
	シラノ・ド・ベルジュラック	原作 エドモン・ロスタン	翻訳 辰野 隆/ 鈴木信太郎	構成・演出 鈴木忠志	2006. 11/02
	イワーノフ/ オイディプス王	原作 アントン・チェーホフ 原作 ソフォクレス	翻訳 池田健太郎 日本語 福田恒存 ドイツ語 ヘルダーリン	構成・演出 鈴木忠志	2006. 11/04
	◎ ★エンジョイ	岡田利規		岡田利規	2006. 12/07
	コペンハーゲン	マイケル・フレイン	平川大作	鶴山 仁	2007. 3/01
	★CLEANSKINS /きれいな肌	シャン・カーン	小田島恒志	栗山民也	2007. 4/18
	★下周村 -花に嵐のたとえもあるさ-	平田オリザ/李 六乙		李 六乙/平田オリザ	2007. 5/15
	夏の夜の夢	ウィリアム・シェイクスピア	松岡和子	ジョン・ケアード	2007. 5/31
	氷屋来たる	ユージン・オニール	沼澤治治	栗山民也	2007. 6/18

★=新作 ◎=THE LOFT 公演

シーズン	演目	作	訳・脚色	演出	公演初日
2007/ 2008	「三つの悲劇」ーギリシャから				
	Vol.1 ★アルゴス坂の白い家 ークリュタイムストラー	川村 毅		鶴山 仁	2007. 9/20
	Vol.2 ★たとえば野に咲く花のように ーアンドロマケー	鄭 義信		鈴木裕美	2007. 10/17
	Vol.3 ★異人の唄 ーアンティゴネー	土田世紀	脚色 鐘下辰男	鐘下辰男	2007. 11/14
	屋上庭園／動員挿話	岸田國士		宮田慶子〈屋上庭園〉 深津篤史〈動員挿話〉	2008. 2/26
	★焼肉ドラゴン	鄭 義信		梁 正雄／鄭 義信	2008. 4/17
	オットーと呼ばれる日本人	木下順二		鶴山 仁	2008. 5/27
	シリーズ・同時代				
	Vol.1 ★鳥瞰図 ーちようかんずー	早船 聡		松本祐子	2008. 6/11
	Vol.2 ★混じりあうこと、消えること	前田司郎		白井 晃	2008. 6/27
Vol.3 ★まほろば	蓬萊竜太		栗山民也	2008. 7/14	
2008/ 2009	近代能楽集『綾の鼓』『弱法師』	三島由紀夫		前田司郎〈綾の鼓〉 深津篤史〈弱法師〉	2008. 9/25
	山の巨人たち	ルイジ・ピランデルロ	翻訳 田之倉稔	ジョルジュ・ラヴオーダン	2008. 10/23
	舞台は夢 ーイリュージョン・コミックー	ピエール・コルネイユ	翻訳 伊藤 洋	鶴山 仁	2008. 12/03
	シリーズ・同時代【海外編】				
	Vol.1 昔の女	ローラント・シンメルプフェニヒ	翻訳 大塚 直	倉持 裕	2009. 3/12
	Vol.2 シュート・ザ・クロウ	オーウェン・マカファーティ	翻訳 浦辺千鶴／ 小田島恒志	田村孝裕	2009. 4/10
	Vol.3 タトゥー	デーア・ローアー	翻訳 三輪玲子	岡田利規	2009. 5/15
	夏の夜の夢	ウィリアム・シェイクスピア	翻訳 松岡和子	ジョン・ケアード	2009. 5/29
★現代能楽集 鶴	坂手洋二		鶴山 仁	2009. 7/02	
2009/ 2010	ヘンリー六世	ウィリアム・シェイクスピア	翻訳 小田島雄志	鶴山 仁	
	第一部 百年戦争				2009. 10/27
	第二部 敗北と混乱				2009. 10/28
	第三部 薔薇戦争				2009. 10/29
	象	別役 実		深津篤史	2010. 3/05
	東京裁判三部作	井上ひさし		栗山民也	
	夢の裂け目				2010. 4/04
	夢の泪				2010. 5/06
	夢の痲かさぶた				2010. 6/03
	★エネミー	蓬萊竜太		鈴木裕美	2010. 7/01
2010/ 2011	[JAPAN MEETS... ー現代劇の系譜をひもとくー]				
	I ヘッダ・ガーブレル	ヘンリック・イブセン	翻訳 アンネ・ランデ・ペータス ／長島 確	宮田慶子	2010. 9/17
	II やけたトタン屋根の上の猫	テネシー・ウィリアムズ	翻訳 常田景子	松本祐子	2010. 11/09
	III わが町	ソートン・ワイルダー	翻訳 水谷八也	宮田慶子	2011. 1/13
	IV ゴドーを待ちながら	サミュエル・ベケット	翻訳 岩切正一郎	森 新太郎	2011. 4/15
	焼肉ドラゴン	鄭 義信	翻訳 川原賢柱	鄭 義信	2011. 2/07
	鳥瞰図 ーちようかんずー	早船 聡		松本祐子	2011. 5/10
	雨	井上ひさし		栗山民也	2011. 6/09
	★おどくみ	青木 豪		宮田慶子	2011. 6/27

★=新作

シーズン	演目	作	訳・脚色	演出	公演初日
2011/ 2012	【美×劇】 —滅びゆくものに託した美意識—				
	I 朱雀家の滅亡	三島由紀夫		宮田慶子	2011. 9/20
	II ★イロアセル	倉持 裕		鶴山 仁	2011. 10/18
	III 天守物語	泉 鏡花		白井 晃	2011. 11/05
	★パーマ屋スマレ	鄭 義信		鄭 義信	2012. 3/05
	まぼろば	蓬萊竜太		栗山民也	2012. 4/02
	負傷者 16 人 —SIXTEEN WOUNDED—	エリウム・クライエム	翻訳 常田景子	宮田慶子	2012. 4/23
	[JAPAN MEETS…] —現代劇の系譜をひもとく—				
V サロメ	オスカー・ワイルド	翻訳 平野啓一郎	宮本亜門	2012. 5/31	
VI 温室	ハロルド・ピンター	翻訳 喜志哲雄	深津篤史	2012. 6/26	
2012/ 2013	リチャード三世	ウィリアム・シェイクスピア	翻訳 小田島雄志	鶴山 仁	2012. 10/03
	[JAPAN MEETS…] —現代劇の系譜をひもとく—				
	VII りつぽ	アーサー・ミラー	翻訳 水谷八也	宮田慶子	2012. 10/29
	★音のいない世界で	長塚圭史	振付 近藤良平	長塚圭史	2012. 12/23
	長い墓標の列	福田善之		宮田慶子	2013. 3/07
	With 一つながる演劇—				
	★ウェールズ編『効率学のススメ』	アラン・ハリス	翻訳 長島 確	ジョン・E・マグラ	2013. 4/09
	★韓国編 アジア温泉	鄭 義信	翻訳 朴 賢淑	孫 振策	2013. 5/10
★ドイツ編 つく、きえる	ローラント・シンメルプフェニヒ	翻訳 大塚 直	宮田慶子	2013. 6/04	
象	別役 実		深津篤史	2013. 7/02	
2013/ 2014	Try・Angle —三人の演出家の視点—				
	Vol.1 OPUS / 作品	マイケル・ホリンガー	翻訳 平川大作	小川絵梨子	2013. 9/10
	Vol.2 エドワード二世	クリストファー・マーロウ	翻訳 河合祥一郎	森 新太郎	2013. 10/08
	Vol.3 アルトナの幽閉者	ジャン＝ポール・サルトル	翻訳 岩切正一郎	上村聡史	2014. 2/19
	[JAPAN MEETS…] —現代劇の系譜をひもとく—				
	VIII ピグマリオン	ジョージ・バーナード・ショー	翻訳 小田島恒志	宮田慶子	2013. 11/13
	マニラ瑞穂記	秋元松代		栗山民也	2014. 4/03
	テンベスト	ウィリアム・シェイクスピア	翻訳 松岡和子	白井 晃	2014. 5/15
★十九歳のジェイコブ	原作 中上健次	脚本 松井 周	松本雄吉	2014. 6/11	
永遠の一瞬 —Time Stands Still —	ドナルド・マーグリーズ	翻訳 常田景子	宮田慶子	2014. 7/08	
2014/ 2015	[JAPAN MEETS…] —現代劇の系譜をひもとく—				
	IX 三文オペラ	ベルトルト・ブレヒト	翻訳 谷川道子	宮田慶子	2014. 9/10
	二人芝居 —対話するカー—				
	Vol.1 プレス・オブ・ライフ~女の肖像~	デイヴィッド・ヘア	翻訳 鶴澤麻由子	蓬萊竜太	2014. 10/08
	Vol.2 ご臨終	モーリス・パニッチ	翻訳 吉原豊司	ノゾエ征爾	2014. 11/05
	Vol.3 星ノ数ホド	ニック・ペイン	翻訳 浦辺千鶴	小川絵梨子	2014. 12/03
	ウィンズロウ・ボーイ	テレンス・ラティガン	翻訳 小川絵梨子	鈴木裕美	2015. 4/09
	[JAPAN MEETS…] —現代劇の系譜をひもとく—				
X 海の夫人	ヘンリック・イブセン	翻訳 アンネ・ランデ・ペータス /長島 確	宮田慶子	2015. 5/13	
東海道四谷怪談	鶴屋南北	上演台本 フジノサツコ	森 新太郎	2015. 6/10	
★かがみのかなたはたなかのなかに	長塚圭史	振付 近藤良平	長塚圭史	2015. 7/06	

★=新作

シーズン	演目	作	訳・脚色	演出	公演初日
2015/ 2016	パッション	作曲・作詞 スティーブン・ソンドハイム 台本 ジェームス・ラパイン	翻訳 浦辺千鶴 訳詞 竜 真知子	宮田慶子	2015. 10/16
	桜の園	アントン・チェーホフ	翻訳 神西 清	鶴山 仁	2015. 11/11
	バグダッド動物園のベンガルタイガー	ラジヴ・ジョセフ	翻訳 平川大作	中津留章仁	2015. 12/08
	鄭義信 三部作				
	焼肉ドラゴン	鄭 義信		鄭 義信	2016. 3/07
	たとえば野に咲く花のように	鄭 義信		鈴木裕美	2016. 4/06
	パーマ屋スマレ	鄭 義信		鄭 義信	2016. 5/17
	あわれ彼女は娼婦	ジョン・フォード	翻訳 小田島雄志	栗山民也	2016. 6/08
★「かぐや姫伝説」より月・こうこう風・そうそう	別役 実		宮田慶子	2016. 7/13	
2016/ 2017	フリック	アニー・ベイカー	翻訳 平川大作	マキノノゾミ	2016. 10/13
	ヘンリー四世	ウィリアム・シェイクスピア	翻訳 小田島雄志	鶴山 仁	
	第一部 -混沌-				2016. 11/26
	第二部 -戴冠-				2016. 11/27
	かさなる視点 —日本戯曲のカー-				
	Vol.1 白蟻の巣	三島由紀夫		谷 賢一	2017. 3/02
	Vol.2 城塞	安部公房		上村聡史	2017. 4/13
	Vol.3 マリアの首 -幻に長崎を想う曲-	田中千禾夫		小川絵梨子	2017. 5/10
	[JAPAN MEETS... —現代劇の系譜をひもとく—]				
	XI 君が人生の時	ウィリアム・サローヤン	翻訳 浦辺千鶴	宮田慶子	2017. 6/13
XII 怒りをこめてふり返れ	ジョン・オズボーン	翻訳 水谷八也	千葉哲也	2017. 7/12	
2017/ 2018	トロイ戦争は起こらない	ジャン・ジロドゥ	翻訳 岩切正一郎	栗山民也	2017. 10/05
	プライムたちの夜	ジョーダン・ハリソン	翻訳 常田景子	宮田慶子	2017. 11/07
	かがみのかなたはたなかのなかに	長塚圭史	振付 近藤良平	長塚圭史	2017. 12/05
	赤道の下のマクベス	鄭 義信		鄭 義信	2018. 3/06
	1984	原作 ジョージ・オーウェル	脚本 ロバート・アイク ／ダンカン・マクミラン 翻訳 平川大作	小川絵梨子	2018. 4/12
	ヘンリー五世	ウィリアム・シェイクスピア	翻訳 小田島雄志	鶴山 仁	2018. 5/17
	夢の裂け目	井上ひさし		栗山民也	2018. 6/04
	★消えていくなら朝	蓬萊竜太		宮田慶子	2018. 7/12
2018/ 2019	誤解	アルベール・カミュ	翻訳 岩切正一郎	稲葉賀恵	2018. 10/04
	誰もいない国	ハロルド・ピンター	翻訳 喜志哲雄	寺十 吾	2018. 11/08
	スカイライト	デイヴィッド・ヘア	翻訳 浦辺千鶴	小川絵梨子	2018. 12/06
	フルオーデション1				
	かもめ	作 アントン・チェーホフ 台本 トム・ストップパード	翻訳 小川絵梨子	鈴木裕美	2019. 4/11
	★少年王者館 1001	天野天街		天野天街	2019. 5/14
	オレスティア	原作 アイスキュロス 作 ロバート・アイク	翻訳 平川大作	上村聡史	2019. 6/06
	★骨と十字架	野木萌葱		小川絵梨子	2019. 7/11
	こつこつプロジェクト -ディベロップメント-				
	リーディング公演				
	リチャード三世	ウィリアム・シェイクスピア	翻訳 松岡和子	西 悟志	2019. 3/13
あーぶくたつた、にいたつた	別役 実		西沢栄治	2019. 3/14	
スペインの戯曲	ヤスミナ・レザ	翻訳 穴澤万里子	大澤 遊	2019. 3/15	

★=新作

シーズン	演目	作	訳・脚色	演出	公演初日
2019/ 2020	ことぜんシリーズ				
	Vol.1 どん底	マクシム・ゴーリキー	翻訳 安達紀子	五戸真理枝	2019. 10/03
	Vol.2 あの出来事	デイヴィッド・グレッグ	翻訳 谷岡健彦	瀬戸山美咲	2019. 11/13
	Vol.3 タージマハルの衛兵	ラジヴ・ジョセフ	翻訳 小田島創志	小川絵梨子	2019. 12/07
	フルオーデション 2				
	反応工程(公演中止)	宮本 研		千葉哲也	
	ガールズ&ボーイズ(公演中止)	デニス・ケリー	翻訳 小田島創志	蓬萊竜太	
	願いがかなうぐつぐつかクテル	ミヒヤエル・エンデ	翻訳 高橋文子	小山ゆうな	2020. 7/09
★イヌビト ～犬人～	長塚圭史	振付 近藤良平	長塚圭史	2020. 8/05	
2020/ 2021	ガラスの動物園(公演中止)	テネシー・ウィリアムズ		イヴォ・ヴァン・ホーヴェ	
	リチャード二世	ウィリアム・シェイクスピア	翻訳 小田島雄志	鶴山 仁	2020. 10/02
	ピーター&ザ・スターキャッチャー	作 リック・エリス 原作 デイヴ・バリ、 リドリー・ピアスン	翻訳 小宮山智津子	ノゾエ征爾	2020. 12/10
	人を思うちから				
	フルオーデション3 其の壱 斬られの仙太	三好十郎		上村聡史	2021. 4/06
	★其の弐 東京ゴッドファーザーズ	原作 今 敏 上演台本 土屋理敬		藤田俊太郎	2021. 5
	其の参 キネマの天地	井上ひさし		小川絵梨子	2021. 6/10
	フルオーデション 2				
反応工程 ※	宮本 研		千葉哲也	2021. 7/12	

★＝新作

※ 当初予定していた「短編フェスティバル『嘘』(仮題)ーはじめての演劇ー」から演目変更

MEMO

MEMO